



市民掲示板

■森林文化学習会講演会 (信州大学出前講座)

- ▲日時/2月8日(土)14時～16時
- ▲場所/茅野市中央公民館視聴覚室
- ▲講師/原山智氏(信州大学理学部特任教授)
- ▲内容/
『地質探偵とさぐる北アルプスの生い立ちの謎』
地球の歴史の中で、山は生成と消滅を繰り返してきました。北アルプスはどうして、その時そこに山ができたのでしょうか。地質探偵ハラヤマが、山の成り立ちを探る旅にご案内します。
- ▲参加費/無料
- ▲定員/20人
- ▲持ち物/筆記用具等
- ▲申込方法/2月4日(木)までに、氏名、住所、電話番号を記して、お申し込みください。
※下記HPからも申込可
(<https://8moribunka.org/>)
- ▲申込・問/NPO法人 八ヶ岳森林文化の会 井村
☎090-4615-8843
E-mail: gakyusyukai@8moribunka.org

ホームページからの
申し込みはこちら



■シルバー人材センター入会説明会

- ▲日時/2月12日(水) 14時～
- ▲場所/茅野広域シルバー人材センター
- ▲申込方法/事前に電話でお申し込みください。
- ▲問/茅野広域シルバー人材センター
☎73-0224

■司法書士による無料相談 「相続登記はお済みですか月間」

- ▲期間/2月3日(月)～28日(金)
9時～16時(土・日・祝日を除く)
- ▲場所/県内各司法書士事務所
- ▲料金/無料
- ▲相談例/・相続登記が義務化されてどう変わったの?・実家が相続登記をせずに空き家となっている・相続人の中に行方不明の人がいて遺産分割協議ができない・法定相続情報証明制度について知りたい・遺言について知りたい・妻(夫)に全財産を相続させたいが、どうすれば?・法務局で遺言書を預かってもらえる制度について知りたい・私が亡くなった後も妻が家に住めるようにしたい
- ▲申込方法/相談する司法書士事務所にお問い合わせください
- ▲問/長野県司法書士会
☎026-232-7492

■自動車事故被害者に対する 支援制度

- ▲内容/自動車事故対策機構(NASVA)は、自動車事故による被害者保護の増進を目的に国土交通省所管の独立行政法人として「重度後遺症障害者への介護料の支給」と「交通遺児等への育成式の無利子貸付」を行っています。
- ▲対象/【介護料の支給】…自動車事故により、「脳」、「脊髄」、「胸腹部臓器」を損傷し、重度の後遺障害を持つため、日常生活動作について「常時」または「随時」の介護が必要となった方。
【交通遺児等への育成資金の無利子貸付】…自動車事故により保護者が亡くなられたり、重度後遺障害を残すこととなったご家庭の中学校卒業までの子ども。
※金額等の詳細は、下記へお問い合わせください。
- ▲問/独立行政法人自動車事故対策機構長野支所
☎026-480-0521

市民掲示板へ掲載する情報を募集しています。

市民の方からのイベントや講座などの告知掲示板としてご利用ください。

- 申し込みは団体・グループで
- 企業・事務所の申込は不可
- 原稿提出締め切りは前々月の20日
4月号に掲載希望の場合は2月20日まで
掲載ルールをご確認いただき、お申し込みください。
問 地域創生課 広報係 ☎72-2101(内線235)

申し込みはこちら



後記 編集

Editor
Note

2月号では、堅穴住居「古過庵」について特集させていただきました。この企画に携わっていた皆様、取材にご協力いただき本当にありがとうございます。

今回が私にとっても、初めての大きな特集となったため、構成から取材、撮影と色々苦戦しましたが、最大限にわたる記事になるように取り組ませていただきました。完成した時は達成感を感じながらも、ほっとした気持ちにとっても大きかったように思います。

取材はその瞬間でしかできないため、インタビューでは生の声が聞けるように、撮影では状況が伝わるように撮ろうと心掛けていましたが、後で確認してみると良く撮れたと思った写真がピンボケしていたり、文字に起こし始めてみると、もつとこの点を掘り下げて聞けばよかったと思うこともあったりと、自分の未熟さを痛感しました。

しかし、インタビューや撮影の瞬間は、実際に現場で熱心に取り組んでいる方々の話を聞いたり、感じたりすることでもっとも貴重な経験でした。また、取材を通して、この企画に携わっていた方々の熱い気持ちや温かい思いがとてもしつとてきて、なるべいく多くの方に、その思いや情景を知ってほしいと思い、自分ができる最大限の力でこの特集を作らせていただきました。

この特集を読んでくださった方々に、少しでもこの場所や取り組みの方々の姿を伝えることができ、興味を持ってもらえたらとても嬉しいことです。貴重な経験を糧に、良いと思ってもらえるような記事を今後とも作れるように邁進したいと思っています。願ひ、これからも引き続きよろしくお願ひいたします。

(編集担当)